

鰯烏賊

三浦半島長井港出船

撮影●鈴木良和



東京湾口部に新群れ来遊 夏イカの筆頭・スルメ上昇気配



●当日の主な釣り場は洲ノ崎沖の水深190メートル前後



●大半の人が直結仕掛けてスルメの乗りを満喫した

▲反応が宙層に持ち上がった早朝は底から40メートルの範囲を探った



●多点掛けの取り込みはイカ釣りフリックの腕の見せどころ



●移動が速いスルメイカは合図と同時の即投入が鉄則

▼シャクリの基本は大きく力強く



●胴長30センチ級。このサイズになると重量感が違う



▼朝イチの流しでいい反応に当たってベテラン2名が4点掛け



▼オモリは120と150号を状況で使い分ける。ブラズノは14～18センチ



相模湾や駿河湾沼津ではマルイカが好調だが、7月上旬ごろから東京湾口部一帯で夏イカの筆頭・スルメイカの模様がジワリと上昇。周年イカ釣りを看板に掲げる三浦半島長井港のはら丸では、洲ノ崎・剣崎沖の水深180～200メートル付近を狙い、多少のアップダウンを繰り返しながら好日はトップ30杯前後の釣果が上がっている。

釣れるスルメは胴長25センチ前後の中型主体だが、今後はさらなるサイズアップが見込めるので、スルメならではのダイナミックな釣り味を楽しめることだろう。

(詳細は54ページ参照)



●三浦半島長井港・はら丸 原 進 船長